

まこと

Volume 61 No.7
JULY 2014



天理教ハワイ学生会月例ひのきしん

Tenrikyo Mission Headquarters of Hawaii

ハワイ伝道庁60年小史

創立20周年記念祭とハワイ青年大会

神殿が落成したが、祭典日は駐車場が不足した。道の将来を考えるともっと広い土地に移転してはどうかという提言があった。松岡國雄二代庁長が退任する1ヶ月前の1971年3月13日、買収資金は教会本部から借用して、2236 Nuuanu Ave. の3.3エーカー（約4000坪）の土地の買収契約をした。価格は10年年賦で88万ドル。吉田進三代庁長はこれを天理文化センターとして開発していくことを計画する。礼拝場として日本建物を静岡県佐野原大教会の旧教祖殿を移築し、回遊式枯山水、日本庭園を築造した。また青少年育成の場として、柔道場、プレスクールを建築した。

1974年6月16日、中山善衛真柱様のご臨席のもと伝道庁創立20周年記念祭を執行した。真柱様は、「伝道庁が開設して10年で移転するという計画が持たれ、更に10年経って20年目には、若い人たちが芯となって、ハワイ大会という名のもとに道の名を広く世界へ広めた。そして今までの20年の歩みを出発点として、親神様のご守護のもと、皆さん方の努力によって、今後30年40年と立派に引き継がれて行きますことを、私は心から望んでいます」と述べられた。

ハワイ青年大会

大会は1974年8月8日夜、カラカウア通りのランタンパレードで開幕した。ロイヤルハワイアンバンドを先頭に、少年会ハワイ団アロハバンド、本島ドラムコープ、愛町ブラスバンド、フロート3台、ねぶた、みこしなど21グループがパレードした。

9日には、HICエキシビジョンホールで「天理・陽気ぐらしへの一歩」のテーマのもと展示会が開かれ、本教の根本理念である陽気ぐらしの教理を巨大なモダンアートとして展示した。

9、10日にはHICコンサートホール（現ニール・ブレイズデル・コンサートホール）でミュージカルショー「祭り 日本の四季」が公演された。

最終日の10日は、コンサートホールで「起て！道の若人」をテーマにハワイの教信者、日本から青年会支援団体、アメリカ本土、コロンビア、ブラジルの代表者など、約1800人が参集した。真柱様は総会で、「こうした盛会を見ることができ、ハワイの皆さん方の一手一つの努力に対し、心よりおねぎらいを申します。そして皆さん方には、大会が盛会に迎えることが出来たが、これで事足りると考えるのではなく、むしろこれからだという気持ちを持って頂きたい。私たちは尽きることのない努力を続け、この世の中が喜びあふれる陽気ぐらしの世界に立て替えるご守護を頂くまで、教祖の道具衆として働かなくてはならないのです」と述べられた。

1974年、創立20周年の年は、ハワイの教友が精魂を打ち込み、一手一つに心を結び、二大行事を遂行したことは大きな誇りである。

一世教会長たち、劇の出演者がステージに登壇し、観衆から拍手を送られる。その後会場とステージが一体となって青年会歌を合唱する（1974年8月10日）



6月月次祭祭文

これの神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に、ハワイ伝道庁長山中修吾、一同を代表して、慎んで申し上げます。

親神様には、教祖をやしるにこの世の表にお現れ下さり、よろづ委細の元の真実を教えて、陽気ぐらしへと導く道をおつけ下さいました。私共は、日々に親神様の御守護を感じ、喜び勇んで暮らさせていただいておりますと共に、思召に添う成人の努力を積み重ねております。その中でも、本日は当伝道庁の6月月次祭の日柄を迎えましたので、只今よりおつとめ奉仕者一同心を合わせ、座りづとめ・てをどりを陽気につとめさせていただきます。御前には今日を楽しみに寄り集った道の兄弟姉妹が、勇んでみかぐらうたを唱和し祈念する状をもご覧下さいまして、親神様にもお勇み下さいませようお願い申し上げます。

真柱様ご夫妻のご臨席を戴いての伝道庁創立60周年記念祭の慶びの余韻の残る中、来月4日には天理教ピクニックを開催し、管内の一手一つの親睦を一層強めていきたいと準備を進めております。また来月おちばで開催のおやさセミナーには、ハワイより前期生3名、後期生5名が受講いたしますが、一同元気に真剣に、教祖の御教えを学び実践させて頂きたく存じます。さらに今月27日には、おちばの修養科で学ぶハワイ出身者4名が3ヶ月の修養科生活を修了し、教祖の道具衆として新たな人生の旅立ちをさせていただきます。

また、来月4日から6日にかけて、ここハワイで開催される全米ジュニア柔道大会には天理柔道クラブより70名の選手が出場します。日頃の鍛錬の成果を堂々と発揮し、天理の名を高揚させて頂きたいと存じます。

私ども一同は、一れつ人間の陽気ぐらしをお望み下さる親神様のお心に添わせて頂き、教祖の道具衆として神一条、たすけ一条の道をハワイのこの地でしっかりと歩ませて頂きます。殊

に、伝道庁創立60周年の大きな節目を盛大につとめ終え、その勢いをもって教祖130年祭へと向けて銘々が仕切って成人への努力を日々積み重ねさせて頂きます。何卒親神様には私共のこの真心をお受け取り下さり、ハワイの道が伸展し、世界中の人々が互いにたすけ合い睦み合う陽気ぐらしの世の状へと一日も早く立て替わりますようお願いのほどを、一同と共に慎んでお願い申し上げます。

祭典役割

祭主	山中修吾庁長
扨者	齋藤コーリン 久尾マーク
賛者	井元ジェリー 鈴木ダレル
指図方	山ロナルド
講話者	岩田タッド (英)
通訳者	岩田もと子 (日)

	座りづとめ	前半	後半
てをどり (男性)	庁長 R.山	T.一瀬 M.稲福	G.井元 D.桧垣
てをどり (女性)	M.社本	E.高田	B.美馬
てをどり (女性)	庁長夫人 M.柿谷	M.岩田 K.齋藤	R.宮内 L.金城
笛	M.三國	C.浜田	A.中川
チャンポン	Y.宮内	W.三國	B.岩田
拍子木	M.岩田	T.井上	S.中尾
太鼓	Y.中尾	D.川崎	W.城
すりがね	G.本田	S.柿谷	T.岩田
小鼓	C.三國	O.中尾	S.社本
琴	T.西村	M.久尾	S.三濱
三味線	T.松川	L.川崎	L.長田
胡弓	S.柿谷	T.中尾	A.綾川
地方	J.山	L.蘇	Y.川崎
	T.美馬	C.齋藤	K.川崎
	S.椎葉	J.蘇	D.鈴木

6月月次祭祭典講話

ハレアカラ教会長 岩田タッド

皆さんおはようございます。そして、すべてのお父さんへ「ハッピー・ファーザーズ・デー」。

ただ今は、大変陽気に勇んでおつとめをつとめさせていただきました。親神様、教祖には大変お喜びいただけたことと存じます。また、今日皆さんと共におつとめがつとめられ、世界だすけに向けた私たちの祈りを、親神様、教祖にお受け取りいただけたことと思います。

去る12月、私はマウイからホノルルに到着後、伝道庁に参拝に参りました。事務所に向かい、山中庁長に挨拶したところ、庁長は満面の笑みをたたえ「君が帰ってくるのを待っていたよ」と仰いました。それはお話で読んだことがある、教祖が帰ってくる子供たちにお言葉を掛けてくださった時の光景のようでした。さらに庁長先生は、「あなたにお願いがありますが、答えは『はい』しかありませんよ」と続けました。

2年前、浜田前庁長先生からおぢばの修養科の一期講師を務めてほしいと言われたときと同じような場面でしたので、一瞬同じ依頼かと心の準備をしました。どんなお願いなのかわからないまま、私は「はい」と答えました。庁長先生は、6月の月次祭で私に講話をしてもらいたいということでした。もうすでに受諾してしまいましたので、今日こうして皆さまの前で、若輩者ですが、精一杯務めますので、しばらくの間お聞き取りくださいますようお願い申し上げます。

庁長先生のお願いは、私が29歳の時に経験した状況と大変似ていると思いました。それは、防府大教会長が特別にハワイに巡教に来てくださり、突然私に、マウイに移ってハレアカラ教会の三代会長に就任してもらいたいと仰ったことです。当時第一子が生まれたばかりで、仕事にも慣れ、任されていた教会の御用にもやりがいを感じ、安定した時期でした。一方、ハレアカラ教



会のことはあまり知りませんでした。教会の成り立ち、信者さん、ましてや教会への行き方すら知りませんでした。さらには、私にマウイに行くようにとの親神様の思召が十分に理解できませんでした。それにもかかわらず、ハレアカラ教会の会長という重責を素直にお受けすることが、正しい決断だと感じました。夫婦で素直にお受けし、両親はそれを支えてくれ、その年の終わりにはマウイに移り、私たちはこの素晴らしいお道を支えに新たな生活を始めました。

おふでさに、

しあんして心さためてついてこい
すゑハたのもしみちがあるぞや (五-24)

時間が経つにつれ、私たちがマウイに移り、重要な御用をつとめるようにお働きくださった親神様の思いがはっきりしてきました。親神様は際限なくお働きくださり、私たちが心を磨き、勇み、陽気づくめの心になるようお導きくださっています。陽気づくめの心とは、人生で何が起ころうと、どんな中も、明るく勇んで通ることだと信じています。それは、晴天であれ、雨天であれ、どんな状況のなかであってもということでもあります。何事も親神様のご守

護であり、そのご守護に対し深い感謝の心を持つことです。そこに至るまでには多くの困難があったのですが、親神様の親心とご存命の教祖がいつも見守ってくださることを常に感じていました。

マウイに移って1ヶ月後、まだ引っ越しの片づけが終わっていないころ、マウイ島に暴風雨が接近してきました。毎時50マイルの突風を伴う、時速30から40マイルの暴風とのニュースでした。ハワイには時々嵐が来るので、今回もそんなに珍しいことではないと思っていました。暴風雨は朝方マウイ島を襲い、強い突風を伴う嵐となりました。近所から心配そうな声で、教会の屋根の一部分が剥がれて飛ばされていると電話がありました。私は大急ぎで外に出て、屋根に登るために長い梯子を探しました。最も長い梯子でも6フィートのものしかなく、一番上まで登りましたが、屋根にやっと手が触れるだけでした。屋根に登るのはおろか、屋根の修理のために道具を運ぶことも不可能でした。さらに屋根が剥がれていくのを見ながら、私は為す術もなくただ立ち尽くすのみでした。

間もなく雨が降り始めました。強い雨のため、10フィート先も見えません。私は、天井の数カ所から雨水が流れ込んでいる、という妻の叫び声を聞くまで、いかにして屋根に登れるかと考えていました。その声を聞いてから、ぼたぼたではなく、屋根をつたって小川のように流れ込んでくる雨水を必死で受けている妻を手伝うことに没頭しました。雨足が強くなり、瞬間に家中には20個のバケツが置かれました。バケツは空にするよりも速く雨水で一杯になり、中にはすでに溢れているバケツもあり、床の上には1インチから2インチの水が溜まっていました。

私と妻が水の溢れているバケツをひたすら空にしているとき、妻を見ると「この雨はいったい止むのかしら？教会はいったいどうなるの」と心配そうな顔をしていました。息子は1歳に

なったばかりでしたが、床の上に溜まった雨水で楽しそうに遊び、まるで夢にまでみていたプールがついに現実になったような顔をしていました。深刻な状況を知らずに無邪気に喜んでいる子供の姿に、私たちは思わず微笑みました。次第に大きくなっていくプールで遊んでいる息子を見て、束の間私の心は癒されました。そして私がマウイに来て早々、隣家に住む80歳の元気な女性が、この教会は私と同じ年齢ですよ、と話していたことを思い出しました。天井から流れてくる雨水を見て、「親神様は教会の普請をお考えになられているのかもしれない」と思いました。

新しい神殿の普請について考えを巡らせていましたが、隣家に住む10代の息子さんが大雨の中で長い梯子を運んでいる音で、その考えは中断されました。どうして、梯子が必要だと分かったのでしょうか。早速外に出て、お礼を述べ、道具を集めて屋根に登りました。激しい風で雨が横殴りに降っていました。それでも屋根に登り、壊れた部分を見ると、そのダメージは想像以上でした。屋根のない部分が100平方フィートあり、悪くなったプライボード（合成木版）にボーリング球サイズの穴が数カ所空き、さらに屋根が風でバタバタと音を立てて今にも飛ばされそうになっていました。雨も風も一向に止みそうにありませんでした。剥がれた屋根の部分を体で抑えて、金づちで屋根に打ち付けようと思いました。

剥がれた部分を覆う方法を考えていたとき、横目に人影が映りました。「教祖が僕をたすけに来てくれたに違いない」と思いました。振り向くと、80歳のお年寄りが金づちを片手に、自信たっぷりに「手伝わせてくれ」と言っているのです。助けてもらうべきか、安全を考えて下に降りてもらおうべきか迷いましたが、理由あって助けに来てくれたと考え、また、自分一人では自信がなかったので、ありがたく彼の申し出を受けました。

雨風の中、不安定な屋根の上で、怪我をさせるようなことをなぜ頼んだのかと思われるかもしれませんが、この人が普通の80歳の男性ではないことを付け加えておきます。彼は70歳ぐらいにしか見えない元気さで、大工の棟梁を引退した人で、屋根の修理では私は足元にも及びません。彼が手伝ってくれたので、雨風が続く中にも関わらずプライボードをのせ、仮の屋根を上げることができました。驚いたことに、瞬間に教会に雨が入らなくなりました。このような状況の中で、屋根の修理を一人ですることは不可能でした。私をたすけに来てくれたことに対し彼に感謝しました。この男性と10代の少年と、心配してくださったご近所によって教会は救われました。

教会長、そして青年会員として、たすけるということに関していえば、普段はたすけの手を差し出す側であり、そうすることで大変満足感がありました。しかし、このような大きなたすけを頂き、感謝と恩を感じました。深い感謝の気持ちをいかにご近所にお返ししようかという思い、それは、生命と日々のご守護に対していかに親神様にお返ししようかという思いに似ていました。

それ以来、私たちは教会のお下がりを持って、しばしば近所を訪ねることにしました。近所の家の庭の掃除が必要であれば、または何でも手伝いが必要なら、たずねて手伝いました。こういう場合、たいていはしばらく話をして、初めは特別な話題もないのですが、興味深いことに、最後は朝夕聞こえてくるおつとめの話になります。近所といっても随分遠くまでおつとめの音色が響いていることに驚きました。息子たちが大きく鳴り物を打ち、毎朝6時に隣人を起こしてしまうので、お詫びに回らなければと初めは思っていました。

ところが、おつとめの話を始めると、どの方も顔に深い感謝と満足を表してくれました。ある人は、おつとめで祈りを捧げたり、日々のご

守護に感謝することを思い出させてくれると話していました。また、ある人は、おつとめの鳴物でまず気持ちが楽になり瞑想することで一日が始まると話していました。まさに、おつとめは計り知れない力を持っています。

会話が進むにつれ、近所の方は家族の問題、病気、苦労話などを打ち明けてくれることがあります。話をよく聞き、支援し、勇ませ、快方に向かうよう、いつもおさづけを取り次ぎます。こうして、近所の皆さんとの関係は、ことあるごとにより強くなります。教会を救ってくれた皆さんの親切に対し、同様のお返しができたとはいまでも思いません。実際、私が何かさせていただけると、近所の皆さんはさらに寛大にそして親切にしてくださいます。私の家族と教会をいつでも喜んで援助してくださいます。

親切で協力的な隣人を神様が与えてくださいました。そして、それは嵐の到来がなければ分からなかったことです。教会は多大な被害を受けましたが、親神様は嵐とそれに代わる支援を与えてくださり、それは教会と隣人との間の絆を強くするためだったと信じています。また、このような精神的なつながりによって、お互いの関係は新たな段階を迎えていると強く感じています。ご近所のホームパーティーでお祈りを依頼されることもあれば、教会で開催したジョイワークショップに参加していただいたり、皆さんに事情があるときは、教理に基づいておたすけさせていただくこともあります。

「論達第三号」で真柱様は、

あらゆる災厄や難渋は胸の掃除を求められる親心の表れである。自らを省みることはもとより、見せられる事柄を通して、人だすけを促されていると受け止め、積極的なおたすけを心掛けたい。

と仰っています。

信仰者として、私たちは世界だすけと陽気ぐ

らし達成をお祈りします。そして、その到達に
一歩でも近づくために、親神様は自分に最も近
しい家族や友人、同僚、隣人から始まるおたす
けの機会を日々与えてくださっています。痛み
や病気で苦しんでいる人がいたら、私たちに何
ができるでしょうか？

「論達第三号」では、

おたすけは周囲に心を配ることから始まる。
身上・事情に苦しむ人、悩む人があれば、先
ずは、その治まりを願い、進んで声を掛け、
たすけの手を差し伸べよう。病む人には真実
込めておさづけを取り次ぎ、悩める人の胸の
内に耳を傾け、寄り添うとともに、をやの声
を伝え、心の向きが変わるようにと導く。

とあります。

私はマウイで、あるフィリピン人の男性に出
会いました。彼は、普段とても明るい人です
が、その日は心配そうな顔をしていました。

「どうしたのですか？」と尋ねると、彼は、
親友のことを心配していると言いました。その
親友は、フィリピンからの移民で、血を吐き3
週間以上入院していて、医者はあらゆる検査を
しましたが、いまだに吐血の原因がわからない
とのことでした。私は、彼の親友に2～3回会
ったことがありますが、60歳ぐらいの健康そ
うな人でした。その親友を病院に見舞ったこと
があるのか尋ねると、彼はないと答えました。
病院に行きたいかと尋ねると、彼は黙ってしま
いました。親友を見舞いに行かないと聞いて少
々驚きましたが、彼の考えを尊重し、私は帰路
につきました。

教会への帰り道、病院に入院中の彼の親友を
たすけるために何かしなければという強い気
持ちは湧いてきました。苦しみや病気で病ん
でいる人のことを聞き、このような気持ちにな
った経験が皆様にもあるかと思います。こんな
考えは少々高慢なようですが、もし私が彼を見

舞わなければ、彼におさづけを取り次ぐ人がい
ないではないか。教祖はいかに彼をたすけるの
だろうか？私は、車を道路の路肩に止め、病院
に電話をかけました。A氏の部屋番号を聞いた
ところ、電話を取った女性が集中治療室に回し
てくれました。お願いしますと言ったものの、
今まで電話を回されたことがなかったので、
おかしいなと思いました。私がA氏と面会でき
るのか、集中治療室の人に尋ねると、病室にい
る看護師に電話をつなぐ必要があると言われま
した。面会謝絶だから親友でもお見舞いに行け
なかったのかと考えました。看護師は電話を取
るなり、A氏に私との面会の了解を得るため、
私に名前を尋ねました。私は躊躇し、恐らく彼
は私の名前を知らないだろうと伝えました。名
前の知らない人が面会を要望していることに看
護師は少々驚いている様子でしたが、とりあ
えず私の名前を聞き、A氏に伝えました。看護
師からは「申し訳ありませんが、彼はあなたを知
りません」と言われるのではないかと覚悟して
いましたが、逆に「彼がどうぞお入りください
と言っています」という言葉を受けたのです。
私は驚き、会ってもらえる嬉しさと同時に患者
の容態がどうなのか心配でした。教祖が先回
りし、私に従うように促されていると思えま
した。

病院に到着後、集中治療室に入る特別許可を
取り、A氏の病室へ入る前に消毒をしなければ
なりません。A氏が私を見たとき、私が
彼の待っていた人ではないことが直ぐにわかり
ましたが、引き下がれませんでした。私は、ど
うして彼の病状を知り、面会を求めたかを説明
しました。彼の表情は、面会人に見せる感謝を
表すものになっていました。彼は医者がいま
だに何が悪いのか判明できていないと言いま
した。おさづけの取次ぎを申し出たところ、すぐ
に受けてくださいました。私は、彼の前に座り
ました。彼はシャツを開き、そこには様々な管
が体に繋がっていました。胸部から腹部に渡っ

て大きな十字架の刺青もありました。「親神様に生命と日々のご守護に感謝しましょう」と話しました。彼は頷き、私はおさづけを取り次ぎました。おさづけを取り次いでいる間、彼は涙を流していました。彼は、神様を信じて穏やかに見えました。また来てよいかと尋ねると、「お願いします」と言いました。翌日、A氏を訪ねることにし、電話で許可をもらおうとしました。病院に電話を掛けると、驚いたことに、「ここには該当者はいません」という返事でした。呆然とし、言葉を失いました。「いったいどういうことだろうか？」と一人で繰り返しました。「ここには該当者はいません」とだけ答えるのです。退院したのか？出直してしまったのか？私は訳が分からなくなりました。

それから2～3日は、フィリピン人の友人を見つけられませんでした。ようやく会えたときに彼はまた前のように明るくなっていて、医者がついに病気を見つけ、友人を退院させたと話してくれました。病名は進行性の肺癌でステージ4ということでした。A氏の住所を尋ね、家に行きました。A氏は、私が病院に行った日に医者がついに病気を探してと話しました。彼は、癌治療を始め、しばらくの間毎日病院に通うと言いました。彼の妻が出てきて一緒に座り、おさづけを取り次ぐ前にしばらく話をしました。彼らの英語力はとても乏しく、私が話したことは全て理解していなかったと思います。しかし、おさづけを取り次いだとき、彼らは涙を流していました。二人はおさづけをしてもらったことに深く感謝し、また来てくださいと言ってくれました。その後2カ月間A氏を訪ねましたが、ある日彼は嬉しそうに私に「もう癌治療は必要なくなった。医者から癌が消えていると言われた」と話しました。

おふでさきに、

このさきハセカイヂウハ一れつに
よるづたがいなたすけするなら

月日にもその心をばうけとりて

どんなたすけもするとをもゑよ (十二-93,94)

周囲の人が悩みや病気で苦しんでいるとき、それは親神様が私たちに人だすけの尊い機会を与えてくださっているときだと思います。人だすけは専門の免許も、教会長である必要ありません。ただ、親神様が与えてくださったおたすけの機会を自分のこととし、成人と親神様の思いに応えるため、それを喜んで受けることが大切だと思います。

教会長として私が一番嬉しく感じるのは、教会の信者さんや教会に繋がっている人たちが、人だすけに携わっていることを見聞きするときです。具体的には、悩みを聞いたり、信仰の喜びを分かち合ったり、教会で身上や事情解決を祈り、おさづけを取り次いでいるときです。マウイに移って間もなく、教会の信者さんが、地域の友人や知り合いを訪問しておたすけをしようと提案してくれました。私はこの提案がとても嬉しくて、以来毎月おたすけ活動を続けています。人に出会い、信仰の喜びを伝え、出会った人たちのために祈ります。立場、年齢、経験を問わず、より多くのよふぼくや信者がおたすけに関われば、人間創造の目的である人類の平和、友好、陽気ぐらしの実現に一歩でも近づけるのです。

日々親神様から計り知れないご守護を頂いているのですから、教祖130年祭の旬に、今まで以上に家庭や地域において陽気ぐらしのモデルとなれるよう、信仰の喜びを広げ、どんなときも明るく勇んだ心で通らせていただきます。

おふでさきに、

だん／＼になにかの事もみへてくる

いかなるみちもみなたのしめよ (四-22)

ご清聴ありがとうございました。

伝道庁連絡

カカコ教会創立80周年

カカコ教会（木村バロン会長）は、6月1日（日）に創立80周年記念祭を執り行いました。おめでとうございます。



ハワイ学生会

今年の3月にハワイの天理教学生会が発足しました。学生会の月例行事として、6月から伝道庁月次祭の準備ひのきしんを行っています。6月は学生会メンバー5人が月次祭前日に宿泊し、神殿と階下ホールの準備ひのきしんを行いました。

こんにちは赤ちゃん

2014年6月6日（金）、キタガワ・コリー、ジャネル夫妻（プカラニ布教所）に二番目の赤ちゃんが誕生しました。名前は、エミ・ヤスコ、体重3119グラム、身長46センチの元気な女の子です。おめでとうございます。



7月月次祭

7月20日（日）午前9時より執り行います。祭典講話は、山口ナルド・カリヒ教会長がつとめます。直会後の教会長・布教所長会議は、12時45分から行います。

教人資格講習会英語クラス

8月27日～9月10日

教会長資格検定講習会英語クラス

9月27日～10月19日

願書は各直属で準備し、北米・オセアニア課経由後、教人資格講習会の願書は8月23日～24日に、教会長資格検定講習会の願書は9月23日～24日に、それぞれ講習課へ提出してください。

婦人会だより

今年も半年が過ぎ、教祖130年祭まで早一年半となりました。今日のこの一歩、この心づかいや身の行いが、教祖130年祭へと続く道となる。ご存命の教祖の手をしっかり握って前へ前へと進ませて頂きましょう。

■バザーひのきしん（毎週水曜日）

ウェストハウス 9：00 - 12：00

■婦人会委員会

7月7日（月） 19：00

■ヌアヌハレ慰問

7月12日（土） 9：30

■婦人会例会

7月14日（月） 9：00

■女鳴物練習

7月15日（火） 9：00

※7月の月次祭直会当番は、周東グループです。よろしくお願ひします。

少年会だより

■夏のこどもおぢばがえり

今年のおぢばがえりにハワイ団からは計24人が参加させていただきます。その内9人が海外少年ひのきしん隊に参加し、7人のこどもたちが一般参加します。

■天理教バザー

今年のバザーは8月24日に開催されます。少年会員の皆様にも是非ひのきしんに参加していただきたいと思ひます。バザー会場では、火を使用したり、狭い場所や駐車場もありますので、子供たちが怪我をしないよう保護者の方には十分注意していただきますようお願いいたします。

女子青年だより

■天理教バザー

女子青年は、焼き菓子ブースを担当しています。焼き菓子をドネーションしていただける方、商品の包装を手伝っていただける方は井上ミシェルまでご連絡ください。この機会に皆様の友人も誘っていただき、一緒に参加していただけたらと思ひます。よろしくお願ひします。

■ウガンダ・プロジェクト（ミニバザー）

皆様のおかげでプロジェクトの目標の半分まで到達させていただきました。引き続き、ミニバザーでの焼き菓子を募集しています。岩田モニカさん作のバナナとチョコのビスケットを味わっておられない方は、是非ミニバザーに足を運んでください。

■文房具ドネーション

ハワイにいる恵まれない学生のために文房具を集めています。バック、ペン、鉛筆やノートなど何でも結構ですので、ミニバザーに持ってきていただくか、井上ミシェルまでご連絡ください。

青年会だより

■委員長メッセージ

ハワイ青年会員の皆様アロハ！アメリカ青年会は今年結成60周年を迎え、6月14日に婦人会と合同で総会を開催しました。ハワイ青年会を代表して、ブラジル青年会の代表とともに総会に出席させていただきました。皆様のサポートを頂き、あのような素晴らしい場に参加させていただき感謝しています。

青年会のアドバイザーとして13年間にわたり務めてくださった岩田メルビン先生が先月をもってその任を解かれました。岩田先生には、長きにわたりハワイ青年会の相談役として大きな親心をもって会員の相談、丹精に尽力くださいました。ありがとうございました。今月からは新アドバイザーとして柿谷節生先生（高知誠教会長）がつとめてくださいます。よろしくお祈いします。

さて、今月4日は天理教ピクニックがカピオラニ公園で開催されます。時間は朝9時から、午後2時までです。青年会はテントの設置と撤収をさせていただきますので、お手伝いいただける方はよろしくお祈いします。また、ハワイ青年会は、引き続き木の伐採ひのきしんをさせていただきます。詳細はメールまたは電話でお伝えします。

■月例会議

7月16日（水） 19：30

於：レインボーハレ

7月行事予定

- 1日（火）・コミュニティひのきしん
・天理文化センター月次祭
- 4日（金）・天理教ピクニック
- 5日（土）・三代真柱様追悼式
- 7日（月）・月例をいをがけデー
・婦人会委員会
- 12日（土）・Adopt A Hwy清掃ひのきしん
・婦人会ヌアヌハレ慰問
- 14日（月）・婦人会例会
・文化センター&文庫合同委員会
- 15日（火）・婦人会鳴物練習
- 16日（水）・主事会準備会
・青年会会議
- 17日（木）・少年会会議
- 19日（土）・主事会
- 20日（日）・伝道庁月次祭
・教会長布教所長会議
・サンデースクール
・アロハバンド練習
- 21日（月）・山中庁長夫妻家族帰本
（庁長8/6帰任）
- 24日（日）・ハワイ団こどもおぢばがえり
（～7/30）
- 26日（土）・遥拝式
・おてふり鳴物練習
- 31日（木）・庁長夫人及び家族帰任

三代真柱様追悼式

7月5日(土)午前9時

中山善衛・三代真柱様が6月24日午後7時55分お出直しになりました。
7月5日(土)午前9時より、伝道庁で追悼式を執り行います。

TENRIKYO HAWAII DENDOCHO

2920 Pali Highway Honolulu, HI 96817

Phone : (808)595-6523 Fax : (808)595-7748

E-mail : dendocho@tenrikyo-hawaii.com

感謝、慎み、たすけあい

陽気ぐらしのキーワード

■ 第44回天理教バザー

日時：2014年8月24日（日） 午前8時半～午後2時半

場所：天理文化センター（2236 Nuuanu Avenue, Honolulu, HI 96817）

天理教バザーは、ハワイ管内の教友が集い、親交を深めながら地域社会に貢献できる場です。バザーが長年にわたり続いているのは、ひのきしんに励む教友の方々の誠真実があってこそです。今年もぜひ皆様のお力添えを賜りますよう、どうぞよろしくお願い致します。

バザードネーションの受付日時・場所は以下の通りです。

8月3日(日)～13日(水) 午前10時～午後4時 於：天理文化センター

***家具、電化製品、コンピューターなどは、お引取りできません。**

スクリップ、チキンチケットは伝道庁、またはお近くの教会でお求め下さい。

（バーベキューチキンにはチキンチケットが必要です。お間違えのないようお願い致します。）*お問い合わせは、ハワイ伝道庁（595-6523）まで。